

# 麦作におけるヤグルマギクの防除法

## 1 技術の要約

麦作の難防除雑草「ヤグルマギク」の防除には、夏期2ヵ月間、ほ場に水を張るとヤグルマギク種子を死滅させ、麦類の晩播により残草量を大幅に減少できます。なお、除草剤では、アクチノール乳剤、バサグラン液剤の散布が効果的です。

## 2 技術の内容

ヤグルマギクは、ヨーロッパ原産のキク科帰化雑草で、麦作ほ場では5月下旬に開花します。ヤグルマギクが多発すると、小麦や大麦の収量が5～9割程度減少することがあります。高さは最大140cm程度に及ぶため、麦類が押し倒されて収穫も困難になるほどの強害雑草です。



麦畑で開花したヤグルマギク

夏期2ヵ月間、ほ場に水を張るとヤグルマギクの埋土種子量を大幅に減らすことができます。さらにヤグルマギクの残草量は、麦類の晩播（11月上旬播種）により大幅に減らすことができます。

また、麦作ほ場では、ヤグルマギク種子の大部分が麦類の播種後から年内に発芽するので、最大ロゼット径5cmまでに除草剤アクチノール乳剤 200ml/10a、残草がある場合には、バサグラン液剤 200ml/10a を幼植物の茎葉に散布すると高い防除効果が得られます。

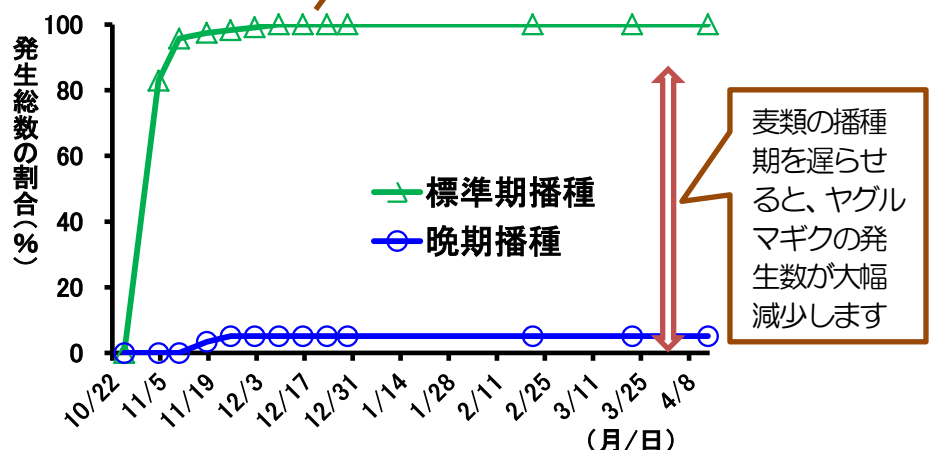


ほ場に落ちたヤグルマギクの種子は、代かき、湛水管理により激減します



発生したヤグルマギクを最大ロゼット径5cmまでにアクチノール乳 200ml/10a、バサグラン液剤 200ml/10a で防除

ヤグルマギクの発生は年内まで



麦類の播種期を遅らせると、ヤグルマギクの発生数が大幅減少します